

# テクニカルな話題 3 題

小田浩一, 月例ロービジョン研究会, 2000/1/22

## 1. 手持ちのMac+数千円で UNIX

LinuxPPC (server) on Blue&White G3、PowerPC用のLinuxの製品が出るようになった。68K用には、FreeBSDがあるようだ。CD-ROMを買ってきても、なかなかインストールは困難。それでも、かなり利用価値はある。すでに、インターネットのサーバのシェアトップは、Linuxであると言われている。

jarvi-mlの意向やコミュニケーションの実験、学内での情報サービスや、センター端末以外からの大学の情報設備の利用など、いろいろな用途がある。

## 2. ついにLCD Displayは、CRTを越えた

液晶ディスプレイ(LCD Display)には、いくつかの難点があった：

- (1). 空間解像度が低い：現在でも多くは、1024x768
- (2). 時間解像度が低い：ブラウン管のようにrefreshの必要がないため、flickerしないから、静止画像のときには見やすいが、動画像の場合には、時間特性が悪いのが響く。マウスポインタが糸を引くように見えたり、逆にそのように表示しないと、動かしているポインタは表示がついていかないために、速く動かすと表示されなくなってしまう。
- (3). 価格が高い：15インチで10万。17-20ともなると、50-100万にもなる。
- (4). 実際に使った人しか知らないかもしれないが、設定レンジが狭く、上手に周波数などの設定をしないと、まるで表示されなくなってしまう。Multi-SyncのCRTモニタが、非常に広い範囲の設定で映ってしまうのと、正反対。気むずかしいといってもいい。

ただし、

- (1). 空間占有体積が小さい：狭いオフィスで、特に2台目のモニタをということになると、非常に魅力的。
- (2). ちらつきがない：
- (3). 移動が容易：重さがないので、オフィスの状況に応じて配置を換えたりするのが苦にならない。

Radius- Focal Point のArtica LCD Display (元は、sgi) は、17インチ横長のディスプレイで、1600x1024の解像度があり、ピクセルあたり24 bitの色階調が出せる。200 cd/m<sup>2</sup>以上の輝度があり、あかるく、かつcrispで、SONYのMultiscan 19ps という19インチのモニタと比べると、ずっと見やすい感じがする。液晶の特徴で、pixelがぼやけない。その一方で中間階調もそれなりに表現する。A4 見開き、つまりA3横置きをまるごと表示して、まだメ

ニューなどを表示するスペースがあると、もう紙の印刷物はなくても、これでいいかなという気にすらなってくる。価格は、50万程度なので、決してやすくはないが、その品質には驚く。sgi-Radius の製品なので、色もきれいだし、CRTの色とマッチングがとれている。

### 3. ワイヤレスの3D眼鏡がこんな値段で買える時代なの？

Radius Articalは、もともとSGI用のものだったが、Macで使うために、Formacといドイツの会社のProFormance IIIというグラフィックボードを付けて売っている。このグラフィックボードには、Artica用のDVI端子とVGA端子がついているだけでなく、偏光タイプの3D眼鏡をコントロールするための端子もついている。LCD 3D glassesは、18,000円程度で買えるし、ProFormance IIIは、3万円程度で入手できる。感激なのは、これのドライヴァを入れるだけで、QuickDraw 3D を立体映像で見られるようになること。scrapbook 中のDXF 3D imagesが立体に見えるのには、感激する。意外とグラフ計算機の3D デモが立体に見えない。Tomb Raider や Quaide などのゲーム、QuickDraw 3Dに対応したものと、3Dに見える。

PCI bus のあるMac + ProFormance III + ProCyber 3D gogglesで、ステレオテストが、ゲーム感覚のものができるのではないだろうか？ ロービジョンの人がどのくらいステレオ感度が下がっているかとか、関連の仕事もできるかもしれない。